



教育部 学校教育教員養成課程  
国際理解教育コース

4回生 竹本 唯



タイで一番高い山にて友達と(本人は左)

## たくさんの気づきをくれた留学

### 留学の動機

私はタイ、チェンマイにあるチェンマイ・ラジャパット大学に留学した。なぜ、タイだったのか。それは一言でいえばタイの魅力にはまったからである。タイへ初めて行ったのは、国際理解教育コースの実習としてだった。その時の衝撃は今でも覚えている。何を話しているのか理解できない言葉に、日本とは違う街並み、タイ人のあふれんばかりの笑顔や親切さ。すべてが新鮮で刺激的だった。もっとタイのことを知りたい、タイ人と関わりたいと思い留学することにした。

### 言葉の壁

留学中一番苦しんだことはやはり言葉だった。今までタイ語を勉強したことなどなかったし、留学前に文字は勉強したもの、話すことなど出来なかった。そのため、外へ出て買い物に行くこともできず、タイに行って2日ほどは食事もできなかった。大学の職員の方も英語で対応してくださり、とても情けない思いでいっぱいだった。それではいけないと思い、そこから必死でタイ語を勉強した。3カ月目から何となく聞き取れるようになり、自分からも言葉を発することができるようになった。屋台のおばちゃんやタクシーの運転手さんと会話ができるときは本当にうれしかった。すると、もっと色々な人と話したいと思うようになり、最後は外に出るとどんな人と出会うのか、どんな話ができるのかということ



タイのお寺にて

が楽しみになっていた。また、後期にはタイ人の学生に交じて授業も受けるようになった。毎日の生活の中で言葉の壁を少しずつ乗り越えているような気がしてとても楽しかった。

### タイでの生活

タイでの生活はおもしろかった。チェンマイには電車もバスもなく、移動手段は乗合タクシーのみで、値段も交渉制。もちろん、多くの人乗り合うので目的地にいつ着くのかはわからない。また、断水や停電もよくあった。それに友達は集合時間

に遅れてくることの方が多かった。今の日本では考えられない生活だった。タイでの生活は時間がゆっくり流れていくようで、のんびりと過ごすことができた。

### タイ人学生との関わり

留学先の大学には日本語学科があり、日本語を学習する学生と関わる機会が多かった。日本語学科では「日本祭」という大きなイベント



日本祭でのオープニングの様子

があり、私も参加させていただいた。この日本祭は日本の文化を広める目的で、一般のお客さんが浴衣を着たり書道の体験をしたり折り紙を折ったりできるイベントだった。学生はソーラン節を練習したり、浴衣の着付け方を習ったりしていたが、私も一緒になって教えてあげられず、情けなかった。日本人なのに日本のことを知らないのが本当に申し訳なかった。日本人であれば日本のことを知っていて当たり前だし、海外に行けばそういったことがより求められると感じた。

### 微笑みの国 タイ

留学を通して、私はより一層タイの魅力を知った。タイはしばしば微笑みの国と呼ばれるが、まさにその通りである。どこに行っても笑顔で優しいタイ人が出迎えてくれる。また、タイ人は知らない人でも人と人の距離が近く、とてもフレンドリーである。それに、みんな「今」を楽しんでいるようであったし、心にゆとりがあるように感じた。それはタイ人の「マイペンライ精神(マイペンライとは日本語で「大丈夫」という意味)」があるからではないかと思う。私にはそんなタイ人が素敵にみえた。私もタイ人のようにマイペンライ精神で今を楽しく生きていけるような人でありたいと思う。

今回の留学は多くの人に支えられて貴重な経験ができました。本当にありがとうございました。



タイで出会ったたくさんの友達